

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、
次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	第 1 回石清尾山古墳群調査整備会議及び第 1 回調査部会
開催日時	平成 2 8 年 1 0 月 2 8 日(金) 1 3 時～1 7 時 (稲荷山北端 1 号墳・稲荷山 1 号墳の調査を現地視察し、その後、埋蔵文化財センターで会議)
開催場所	高松市埋蔵文化財センター 2 階 講座室
議 題	議題 1 石清尾山古墳群調査整備会議及び部会の設置に伴う会長・部会長の選出 議題 2 稲荷山北端 1 号墳の調査成果 議題 3 稲荷山 1 号墳の調査成果 議題 4 事業計画
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	丹羽委員（香川大学名誉教授）、大久保委員（徳島文理大学教授）、森下委員（大手前大学教授）、広瀬委員（国立歴史民俗博物館名誉教授）、山下オブザーバー（県教委文化財専門員）
欠 席 者	なし
傍 聴 者	0 人（定員 1 0 人）
担当課及び 連絡先	文化財課（文化財調査係） 8 2 3 - 2 7 1 4

審議経過及び審議結果

審議経過及び結果

議題 1～4 を設定し、主に委員から以下の内容の指導・助言を得た。

議題 1 石清尾山古墳群調査整備会議及び部会の設置に伴う会長・部会長の選出（事務局からの説明）

- ・今年度中に稲荷山地区の史跡指定に向けた調査を完了させて、史跡追加指定の意見具申の準備を進めたい。また、意見具申に伴い、土地所有者等から指定同意を取得するため、保存活用計画の骨子の作成を進め、関係機関との協議に進みたい。今後は、峰山地区の再調査を進めながら、保存活用計画・整備基本計画の作成を進めてゆくことを計画している。調査と整備の計画作成が重複すること、整備にも調査成果を反映させたいことから、稲荷山地区の調査中に既存の会議を改編し、調査整備会議を設置するもの。

（結果）

- ・調査整備会議の会長は広瀬委員となり、専門部会として調査部会と整備部会を置くことになった。調査部会の所属委員は丹羽委員・大久保委員・森下委員・広瀬委員となり、部会長は丹羽委員に決定した。整備部会は広瀬委員・大久保委員に決定した。

議題 2 稲荷山北端 1 号墳の調査成果

（事務局からの説明）

- ・北側方丘部西側面で 2 列の石列を確認した。ただし、北側方丘部前端の検出には至らなかった。前端は調査状況から流失している可能性が高いと考えられる。ただし、調査成果から、墳丘の推定図を作成することができ、守るべき古墳の範囲は把握できたと考えられる。

審議経過及び審議結果

- ・今年度までの調査成果によって、古墳の形状・規模・構造等を把握することができたことから、史跡追加指定に向けた調査は今回で完了したと考えている。

- ・調査成果を受けて、史跡指定範囲案を会議に提示。

(委員からのコメント等)

- ・同じものを指して石列や段という異なる呼称を用いているため、定義を整理して用語を統一させるべき。
- ・今回の調査では古墳の墳端に限った構造が明らかになったことから、文化庁等への説明や報告書では、今回確認した構造が古墳全体の構造ではないことが分かるように説明すること。
- ・史跡指定範囲案について、登山道を指定地に含めておく方が良いのかどうか、他の事例などを考慮し検討して欲しい。また、最終的な案について、調査部会で示して欲しい。
- ・指定範囲については、土地所有者との協議を経ながら、登山道の付け替えなどができるように範囲を調整することは可能ではないか。

議題3 稲荷山1号墳の調査成果

(事務局からの説明)

- ・墳端と考えられる石列を検出したことから、南側に前方後円墳が存在すると考える。昨年度の測量で北側に円墳が存在するのではないかと考えられたが、その箇所で石列は検出されず、円墳が存在したかどうかは不明。ただし、当初目標にしていた墳形・規模の確定ができたことから、今年度で調査を完了したいと考えている。
- ・調査結果を受けて、史跡指定範囲案を2案提示。

(委員からのコメント等)

- ・稲荷山1号墳は、地形を改変した上で古墳の築造を行っていると考えられる。他の2基と比較すると、興味深い知見ではないか。
- ・この古墳は最低限、形状・規模が明らかになれば十分という形で調査することになった経緯を考えれば、今年度の調査成果で当初の目標は十分に達成できたと考えられる。
- ・指定範囲案について、以前の京都帝国大学の調査成果があり、案1のように円墳に配慮しない範囲の考え方は、上記成果を否定することから、更なる調査が必要になると考えられる。そのため、円墳も含めた案2で調整するべきではないか。

議題4 事業計画

(事務局からの説明)

- ・会議後には、一部の調査区を埋戻し、11月19日に現地見学会、11月30日に完全撤収をしたい。
- ・次年度は調査を行わずに稲荷山地区の報告書作成、史跡追加指定の意見具申準備・協議等を実施する。
- ・平成30年度から峰山地区の既指定古墳の再調査を計画したい。
- ・整備部会の考古学以外の委員の選定・委嘱は今年度中を目途に進め、次年度には整備部会を開催できるように準備したい。

(委員からのコメント等)

- ・整備について、事務局でどのような形の整備をしたいのか、またコンセプトは何か、会議に示した上で議論を進めていって欲しい。